

第161回エイズ動向委員会 委員長コメント
《令和4年 HIV感染者・AIDS患者の年間新規報告数（確定値）》

【概要】

1. 今回の報告期間は、令和4年の1年間
2. 新規HIV感染者報告数は、632件（過去20年間で、20番目の報告数）
3. 新規AIDS患者報告数は、252件（過去20年間で、20番目の報告数）
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は884件（過去20年間で、20番目の報告数）

【感染経路・年齢等の動向（確定値）】

1. **新規HIV感染者：**
 - 同性間性的接触によるものが443件（全HIV感染者報告数の約70%）
 - 異性間性的接触によるものが100件（全HIV感染者報告数の約16%）
 - 静注薬物によるものは0件
 - 母子感染によるものは1件
 - 年齢別では、20～40歳代が多い。
2. **新規AIDS患者：**
 - 同性間性的接触によるものが127件（全AIDS患者報告数の約50%）
 - 異性間性的接触によるものが53件（全AIDS患者報告数の約21%）
 - 静注薬物によるものは1件
 - 母子感染によるものは0件
 - 年齢別では、30～50歳代が多い。

【検査・相談件数の概況（令和4年1月～12月）】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数（確定値）は73,104件（過去20年間で、18番目の件数）
2. 保健所等における相談件数（確定値）は67,009件（過去20年間で、18番目の件数）

【まとめ】

1. 令和4年の新規HIV感染者報告数・新規AIDS患者報告数は、令和3年の報告数より減少しており6年連続での減少となった。ただし、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う検査機会の減少等の影響でHIV感染者が十分に診断されていない可能性に留意する必要がある。
2. 新規HIV感染者の感染経路は、性的接触によるものが約8割5分（うち約8割が同性間）、新規AIDS患者では約7割（うち約7割が同性間）となっている。また、新規HIV感染者・新規AIDS患者ともに、男性が全体の9割超を占めている。
3. 献血時のHIV抗体・核酸増幅検査における10万件当たりの陽性件数は令和3年と比べて減少した。依然、陽性件数があることを踏まえ、HIV感染リスクがある方は、保健所等での無料・匿名検査や医療機関による検査を受けていただきたい。

4. 新規報告数全体に占めるA I D S患者報告数の割合は、依然として約3割のまま推移している。

A I D S発症防止のためには、H I V感染後の早期発見が重要である。H I V感染リスクがある方は、早期発見のため、積極的に保健所等での無料・匿名検査や医療機関による検査を受けていただきたい。また、保健所及び自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、利便性に配慮したH I V検査相談体制を推進していただきたい。

5. H I V感染症は予防可能な感染症であり、適切な予防策をとることが重要である。また、A I D S発症防止のためには、早期発見と早期治療が重要である。感染予防と早期発見は、社会における感染の拡大防止にもつながる。国民の皆様には、梅毒などの性感染症を含め、保健所等での無料・匿名の検査・相談や医療機関による検査を積極的にご利用いただきたい。